

2024年6月10日 国際お茶の日レセプション

加納雄大ユネスコ日本政府代表部大使スピーチ

1 本日は、ここユネスコで第3回目となる、国際お茶の日のお祝いに参加することができ、とても光栄に存じます。UNESCO Community Association (UCA) のマリエッタ・バンチェフ代表をはじめ、本レセプションの企画に携わられた皆様に感謝申し上げます。

2 ご案内のとおり、2019年に、5月21日を国際お茶の日とする国連総会決議が採択されました。同決議において、お茶は、その健康増進効果はもとより、開発途上国・後発開発途上国における農業従事者の貴重な収入源として、貧困・食料安全保障といった社会問題の解決や SDGsの達成に貢献するものと位置づけられています。

3 日本のお茶文化は古代中国から伝来したものとされ、『日本後紀』（840年成立）をひもとくと、815年に大僧都（だいそうず）永忠が嵯峨天皇にお茶を奉ったとの記録が確認できます。その後、中世鎌倉時代に禅宗文化や武家文化の影響を受けながら発展

しました。現代まで伝わる茶の湯文化は、戦国武将が覇を競った戦国時代に発展し、東の間の安らぎを求める、あるいは外交交渉の舞台として、武将達や大商人の間で大変好まれてきました。ちなみに、日本の現在のユネスコ親善大使は、16世紀に茶道を確立した裏千家第十五代家元の千玄室 大宗匠です。

17世紀以降、江戸時代に入ると、お茶を飲む習慣は一般庶民にも普及しました。

4 このように長い歴史を持つ日本のお茶文化が今日まで永く続いてきたのは、伝統を単に継承するのではなく、そこに不断の革新をもたらしてきたからです。本日のレセプションでは、伝統に新しい息吹を与える日本企業の取組をご紹介させていただくべく、日本代表部のブースに、ハルナ株式会社様をお招きしました。同社では、日本の伝統的なお茶をフランスの技術・文化と融合させて新たなコンセプトのお茶製品を開発されており、本日は、日本茶をベースとしたドリンクとお菓子をご用意いただきました。ぜひご賞味いただければと存じます。

ご静聴ありがとうございました。

(了)